

糖尿病・代謝・内分泌内科

● スタッフ（平成27年10月1日現在）

診療科長 小田原 雅人
医局長 伊藤 禄郎
病棟医長 志熊 淳平
外来医長 簡 健志

医師数 常勤 21 名
非常勤 1 名

● 診療科の特徴・特殊性

超高齢社会となった我が国において、肥満者および糖尿病患者数の増加も顕著となっている。従来から糖尿病合併症として知られている網膜症、腎症、神経障害のほか、脳血管障害や冠動脈疾患などの発症予防、進展抑制のために生活習慣の是正、体重コントロール、薬剤などによる介入は重要である。最近はこれらの合併症のみならず癌や認知症などへの関与が明らかにされつつあり、早期からのトータルケアが重要となっている。また、診断技術の向上、疾患への理解が深まったこともあり、下垂体病変の早期発見、甲状腺や副腎疾患への適切な対応、骨代謝の介入などが行われている。我々はこれらの肥満症やメタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症を含む代謝性疾患、内分泌疾患に関して、発症予防から、診断および治療、将来的な合併症進展抑制までのトータルケアを、医療連携を通じて社会に貢献できるよう取り組んでいる。

合併症を含み疾患が多岐にわたることから、当科のみで診断や治療を行っていくのではなく、あらゆる科との連携が院内で行われている。そのため、例えば糖尿病患者が外科に入院したケースであっても、主科と協力して入院中の糖尿病治療を適切に行うことで患者の利益に資する医療の提供を心掛けている。

● 診療体制と実績

初診患者は初診担当の医師による迅速な対応を行っている。他科との連携が良好であり、また看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士を含む20名の日本糖尿病療養指導士（CDEJ）が在籍しており、高度で幅広い知識を有した多職種による糖尿病のケアが可能となっている。糖尿病足病変に係わる適切な研修の終了した常勤看護師などによるフットケア外来も開設し、足病変発症予防、早期発見に努めている。

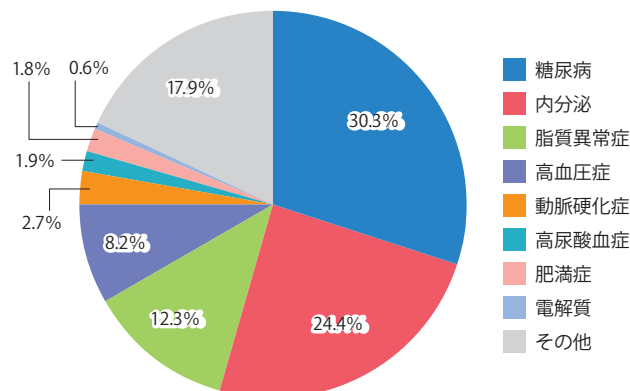
下記図表に示す通り、当科通院中の患者数（外来再診患者数）は糖尿病患者が最も多くなっている。基本的に良好な血糖コントロールを示す患者は医療連携により地域医療の枠組みでの医療継続をお願いしており、他科にも通院してインスリン治療などの専門的な治療が必要と考えられる患者の比率が高くなっている。一方、外来初診患者数を見ても、甲状腺を中心とした内分泌疾患の比率が高くなっているが、入院患者数で見ると内分泌疾患の比率は低下している。これは内分泌疾患に関しては外来である程度の検査や治療を進めており、入院では

下垂体前葉機能負荷試験、甲状腺のラジオアイソトープ治療、副腎静脈サンプリングなどが中心となっているものと思われる。

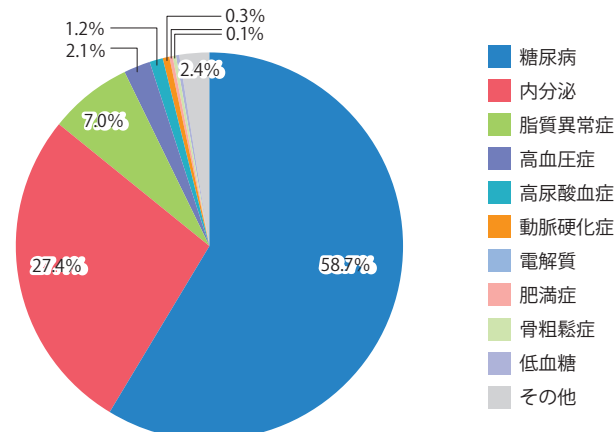
また、複数の代謝性疾患、例えば糖尿病、高血圧、脂質異常症を合併した患者が多いことから、図表の数字よりも実際は糖尿病、高血圧、脂質異常症患者数は多くなっている。その他には糖尿病で紹介受診したが悪性腫瘍を診断された例、糖尿病で通院中に肺炎に罹患した例などが含まれている。

平成27年度		来院患者数（実数）
外来	初診	1,809 人
	再診	5,579 人
入院		379 人

外来初診患者の疾患群の内訳



外来再診患者の疾患群の内訳



入院患者の疾患群の内訳

